

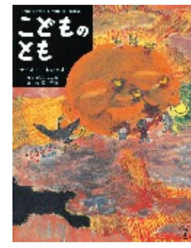


夢の本棚

発行所：松居直コレクション
プロジェクト
代 表：金戸 美紀子
事務局：石川県小松市
小馬出町10-3
空とこども絵本館
☎ 0761-23-0033
bookrin@city.komatsu.lg.jp

【活動方針】①絵本の楽しさを伝える〈親子読書の奨励〉②絵本の歴史を学び、進むべき方向を考える〈絵本文化の研究〉
③市が所有する知的財産として、次世代に正しく伝える〈絵本文化の継承〉

◆『**ピエタ、うみへいく**』
これはチェコの物語な
んです。ここに「**う
ちだみちこ**」って名前
が書いてありますが、
後の堀内路子さんです。
早稲田の学生の頃に訳
してもらったんです◆
そして、挿絵が**丸木俊
子**。丸木位里先生の奥
様、赤松俊子さんです
◆画家でもあり彫刻家
でもあった**土方久功**先
生という方がいます。
赤松先生とは、戦争中、
ミクロネシアにいらっ
しゃる頃から非常に親
しかったんですね。私
の家が、パラオ島で真
珠の養殖をしてスポン
サーでもありましたか
ら、そこへ皆遊びに来



うちだみちこ案/丸木俊子画
28号/1958年7月号

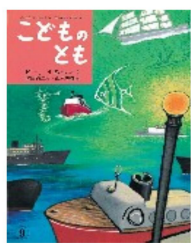
とつても力のある絵

『子どものとも』を彩る作家と画家たち ⑪

られるんで、サーブの
ようなものをしており
ました◆丸木俊先生、
もうこの頃は『**原爆の
図**』（全15部のうち第
10部くらい発表）の後
ですけども、絵本を描
かれるってことを私は
知ってましたから、こ
れが丸木先生の福音館
書店では最初の仕事で
す◆この表紙、とつて
も力がありますね。な
かなかこんな力のある
作品、描けないもんで
すけど、その後もうい
つか仕事をやっていた
だきました◆それから、
丸木位里先生にも、私
は位里先生の最初の絵
本を描いていただいた
ことがあります。墨絵
に素晴らしい絵を描い
ていただきました。

船の絵本を見せたい

◆『**ピエタ、うみへいく**』
これが、**瀬田貞二**さん
の3つ目の絵本です。
どうしても船の絵本を
子どもたちに見せてや
りたいと思ひまして、
私は瀬田さんを誘って、
横浜の港へ船を何度か
見に行きました。横浜
の港へ行きますと遊覧
船があります、それ
に乗りますといろんな
船が見られます◆子ど
もも一緒に連れて行き
ますと、子どもはほん
とに船に興味を持ちま
すよね。「あの大きな
波の絵は忘れないね」っ
て子どもは言いますが、
この絵は、乗り物絵本
のベテラン、**山本忠敬**
さんの方が描いてくだ
さったんです。この方
は、アニメーションの
映画を戦争中にやって
らしたことがあって、
絵でストーリーを表現



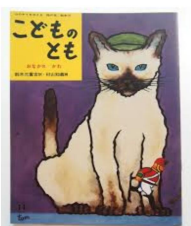
瀬田貞二作/山本忠敬画
30号/1958年9月号



◆私が『**黒い鳥**』をすっ
と調べておりました時
に、**鈴木三重吉**が「お
なかのかわ」という題
で、多分翻訳だと思ひ
ましたけれども、短編
の物語を書いているん
ですね。それが面白かつ
たんで、これを描ける
のは**村山知義**先生だな
あとと思ひました。村山
先生は、私が子どもの
時の大好きな絵描きさ
んの一人でした。『**虹の
友社**』から出してる『**子
供之友**』なんかに、**村
山**先生はずっつと描
いているし、ヨーロッパ
の新しい絵画技法を
日本に持ち込んで来ら
れた方です◆戦後は、
前衛芸術家や演出家と
して、さらに『**忍びの
者**』というベストセラー
小説もお書きになって
ますが、あまり絵本を
お描きになっていない

『誰も頼みに来ないから』

◆ほんとに楽しく描い
ていただいた、素晴ら
しい『**おなかのかわ**』
です。私は体験的に、
この絵が子どもの心に
非常に強く残るってこ
とがわかります。この
後何度か、村山先生に
描いていただけてます
が、最後の方のお仕事
は『**子どものとも**』以
外には全然描いていま
せん。(つづく)



鈴木三重吉訳/村山知義画
32号/1958年11月号

子どもの心に残る絵